

我が卸団地

辻 昭 久

(協同組合 秋田卸センター 理事長

／株式会社辻源 代表取締役社長)



協同組合 秋田卸センターは、市街地の過密化・店舗の狭隘化・交通規制の強化・倉庫の不足など、経営環境の改善を図るため、独立行政法人中小企業基盤整備機構の高度化融資制度を活用して店舗等集約化事業を実施し、昭和45年に設立いたしました。

当組合及び組合員企業が立地する一帯は、通称「卸団地」と呼ばれ、地域の流通拠点として定着しております。

秋田県内には横手・能代・大館に卸団地があり、連絡協議会を組織しております。また、全国では、北は北海道から南は沖縄まで当組合を含め100団地が加盟し、全国卸商業団地協同組合連合会を組織しております。このように、県内はもとより全国規模での情報交換や交流を図っております。

組合の設立と土地造成に際しましては、当時の小畑県知事より認可をいただくとともに、卸団地整備に向けた高度化事業実施の窓口として、秋田県からは多くのご指導とご助言をいただき、事業を進めることができました。

また、秋田市からは団地の道路・上下水道・公園等の基盤整備にご協力いただいたほか、団地内景観維持のため建築協定を結ぶなど、様々

な連携のもと今日に至っております。

組合の設立と運営という点においては、秋田県中小企業団体中央会のご指導ご支援をいただいております。

秋田銀行からは、昭和49年に卸団地唯一の金融機関として卸町支店を開設（現在は団地外）していただき、組合員企業発展のため組合及び組合員企業を支えていただいております。

このように、多くの関係機関の応援をいただいて誕生した卸団地は、当初、卸売業が39社で始まりました。現在、組合員は62社、従業員総数約1,160名、年間販売額約860億円という状況に至っております。

当卸団地は、国道13号線に隣接し、高速道路秋田南インターから車で20分、山王官庁街にも近い好立地にありますし、通勤の利便性も良いことから求人にも最適な場所と言えます。

しかしながら、残念なことに現在は空き区画は殆ど無く、入居希望に添えない状況であります。周辺は住宅街であるためエリアを広げることが不可能な状況で、現組合員が建て替えや増設を行うことも難しくなっているのが現状であります。

卸団地という物流を中心とした環境を維持することは特に重要であることから、入居の条件

として業種だけでなく、自社所有土地・建物であっても譲渡や賃貸する際の制約もあります。

また、組合への加入時には、出資金・加入金・申込金等加入費用もルールがあり、誰もが簡単には入居できないようになっているのも特徴のひとつです。

卸団地の真ん中に位置する組合会館内では、簡易郵便局を直営で運営しているほか、多目的ホール（82坪）、多目的ルーム（37坪）、会議室（25坪）、研修室（和室10畳）があります。

これらは、組合員はもちろんのこと一般の方にも広く貸し出しをしております。それぞれ展示会から会議・レクリエーションまでいろいろな場面で使用できますし、テーブル・椅子はもちろん備品も取り揃え、リーズナブルな価格設定をしておりますので是非ご利用ください。

なお、組合会館及び別館内には、秋田地区交通安全協会・秋田県警察官友の会・（公社）秋田南法人会・（一社）秋田県法人会連合会・秋田地区事業主交通安全推進協会・秋田中央地区安全運転管理者協会の各団体に入居いただいております。

卸団地というと、40代以上の方には「盆おどり」と記憶にある人がいらっしゃると思います。昭和49年から平成10年までの25年間、地域住民とのコミュニケーションと在庫一掃・消費者への還元を目的とし、にぎやかに開催しておりました。

当時は秋田市内のイベントとしてはかなりの規模でありましたので、中止を惜しむ声が沢山ありましたが、景気の後退や、従業員への労力の負担も多く継続を断念したことを覚えております。

卸団地は、長きにわたり地域中小卸売業を中心に様々な業種（小売業、サービス業、印刷業、道路旅客・道路貨物運送業）が集積した地域の流通拠点として、地域社会への商品の安定供給の一翼を担ってまいりました。今後も、地域経済に必要とされるエリアであるよう努力を続ける所存でありますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

ここからは、これからの卸団地について少し述べたいと思います。

昔と違い、組合が新規で事業をするということは、様々な要因から大変難しくなっております。今、何をすべきか考えたときに、今後の卸団地の治安・業務環境の維持と組合員の結びつきが重要であると考えに至り、今年度は「安全・安心な卸団地」を第一に掲げました。

3年前、組合員企業数社が、社用車からガソリンを抜き取られる事件が頻繁に発生しましたが、共同警備委託先であり、組合員でもあるALSOK秋田(株)と警察の連携のもとに犯人逮捕に至り、無事解決することができました。

このような事故の対策・防衛のための新事業として、10月に卸団地入口4か所に防犯カメラを設置いたしました。これは県内における企業団地として初の取り組みであります。設置にあたりましては、秋田県・秋田市・警察等関係部署の皆様から丁寧にご支援ご指導いただきました。心から感謝を申し上げます。

環境対策といたしましては、昭和48年から継続実施しております定例清掃があります。今年度は定例清掃に加え、公園を中心に一斉クリーンアップを実施する計画であります。

また、組合員間の交流と人材育成事業として、

経営随想

社長会や講演会・従業員向けの研修、法律相談や年金相談などを実施しているほか、健康関連事業としてインフルエンザ集団予防接種にも取り組んでおります。

さらに、前理事長の桑原功氏が掲げていた「団結団地」路線を継承するべくコミュニケーションと呑みニケーションを図り、組合員各社の要望等を吸い上げております。

話は変わりますが、再来年、2020年の東京オリンピックの年に当組合は、創立50周年を迎えます。これを機に、今後の卸団地はどうあるべきかを検討し提言していきたいと思っております。

50年前というと、当社の取扱品でいうとテレビコマーシャルでは花王が「メリットシャンプー」を、ライオンが「エメロンシャンプー」を発売し、丹頂（今のマンダム）がチャールズ・ブロンソンを使い男性化粧品「マンダム」を発売し一世を風靡していました。また、ソニーが10万円を切る電卓を発売し、キャノンが国産初のコピー機を発売した時代でもありました。

東京では歩行者天国が始まり、日本航空機よど号ハイジャック事件が起きたのもこの年でした。

などなど回想しますと、この50年での世の中の変化には今更ながら驚くほかはありません。世の中の変化と同時に流通も激変いたしました。

ご存知のように、小規模な専門店が大手量販店にかわり、更にはネット販売が急激な勢いで伸びております。購買の形態が様変わりをする中、今後もこの流れは加速していくものと考えられます。これら変化に加え、県内人口の減少・少子高齢化などにより卸売業界を取り巻く環境は誠に厳しい状況にあります。

組合員もこの状況のなかで大変苦勞しておりますので、これからは「組合として組合員のために何ができるのか」を最重要テーマとして、組合事業に取り組んでまいり所存であります。

最後になりますが、これまでも厳しい経営環境下、団地内組合員企業は、時代の流れに対応しながら変化し続けてきました。これからも、今までもそうであったように豊富な経験と知恵をもって繁栄し続けるに違いありません。

そんな素晴らしい組合員とともにこの卸団地で仕事ができることは、私にとって誇りであります。

組 合 概 要

1 組 合 名	協同組合 秋田卸センター	9 組 合 員 数	62社
2 代 表 者 名	理事長 辻 昭久 (株式会社辻源 代表取締役社長)	10 共 同 施 設	組合会館・別館 〔多目的ホール、多目的ルーム〕 会議室、研修室（和室） 簡易郵便局 共同駐車場（3か所）
3 所 在 地	〒010-0061 秋田市卸町三丁目6番3号	11 共 同 事 業	人材育成事業 環境整備事業 福利厚生事業 ほか
4 T E L	018-863-1902		
5 F A X	018-862-5398		
6 U R L	http://www.akitaoroshi.jp		
7 設 立 年 月	昭和45年7月		
8 出 資 金	182,150千円		